

■ 令和2年度 男女共同参画審議会 第1回 策定部会

日時：令和2年6月4日（木）10:00～12:00

会場：新潟市役所分館6階1-601会議室

1 部会長選出

- ・指田部会員（NPO 扉代表）に決定

2 次期男女共同参画行動計画について

① 事務局から説明

・条例上、計画策定は審議会の意見を聞いて行うことになっており、審議を効率的に進めるため、策定部会を設けて改正の具体的作業をすることに審議会から同意いただいた。

・施策の体系は、必要があれば基本理念に沿った範囲での追加や修正が可能。

・市の現状について、昨年行った意識調査では、固定的な性別役割分担意識は解消に近づいているという数字が出ている。しかし「男女の地位の平等感」は全国と比較すると新潟市民の平等感は総じて低く、中でも地域社会や学校において全国との差が開いている。

・3次計画のこれまでの3年間の審議会からの事業評価結果や、前回改定時からの法整備などについて説明。女性活躍推進法を始め、労働に関する法律が相次いで改正され、法律や制度面で職場環境整備が進められている。国の5次計画のコンセプトにも同様の記述。

・今回の改定のポイントの一つを女性の職業生活における活躍の推進と捉えており、次期男女共同参画行動計画は、同じ時期に終期を迎える女性活躍推進計画を包含することにより、一体の計画として進めていきたいと考え、施策体系案を作成した。

・「施策の体系」の事務局案（たたき台）を提示。方針は、現行の男女共同参画行動計画の施策体系を維持しつつ、女性活躍推進計画を一体化させる。一体化にあたっては、職業生活と密接に関係ある目標3・4に集約する。目標3・4に分類する施策は、国が示している女性の職業生活における活躍の推進に関する基本方針に基づいて構成する。目標1と2の女性活躍推進計画と重複する部分は現行の体系を維持するために再掲とする。目標6のセクシュアル・ハラスメントはその他のハラスメントを含めて目標4に位置づける。

② 質疑応答

（鈴木委員）

目標1（3）の「男性の理解促進」は目標4（1）に再掲するというのでよいか。

（事務局）

そのとおり。

(井上委員)

目標4にハラスメントをもつてくると目標6のところにはハラスメントという言葉が出てこなくなるが、「暴力」に包含されるという理解でよいか。

(事務局)

セクシュアル・ハラスメントも女性に対する暴力の一つという位置づけで、国の計画でも同様の位置づけ。最近のハラスメントは、パワハラやマタハラなど、主に職場で行われるケースが多い。国でも職場におけるハラスメントについては法整備を行っており、目標4に移したらどうかと考えた。

(田中委員)

ハラスメント＝セクハラと限定で考えている人や、無意識の人も多くいると思う。自分が暴力を与えている可能性もあるということに気づけるような計画にしていけたらよい。

2月に開催された、岩手大学の内藤先生による男女共同参画の計画策定講座は参考になった。策定の改定時には取捨選択し、本当に必要なところに集中するとか、他課と連携していくということが印象に残った。そのような考え方で今回の4次計画を作っていくという考え方でよいか。

(事務局)

参考になる点は多く、今回の改定時にもできるだけ活かしていきたい。まずは計画の施策体系や本文を整理していくが、その後どう進捗管理をしていくのかという課題もある。

(井上委員)

目標4の「地域活動」はどこに出てくるのか。

また、国の第5次基本計画には「SDGs」という文言が新たに出てきているが、市の計画では意識されるのか。

(事務局)

国の基本方針に準じたため「地域活動」は削除したが、目標4(2)を「職業生活と家庭生活、地域活動とが両立できるための取組み」としたい。

SDGsの観点については、最近改定した他政令市でも視点として入っている。「計画の策定にあたって」という計画の本体に入る前の前文のところに国際的な動きなどがまとめられており、ここにSDGsのことも入れていきたい。

(部会長)

学校教育や社会通念、しきたりなど、新潟市の男女の地位の平等感が低い分野を底上げしていくためには、目標1「意識の啓発」や「社会制度・慣行等の見直しと意識の改革」が大

きく関わってくると思うが、強化する予定はあるか。

(事務局)

絶対的な水準が低いのが、社会通念、慣習、しきたりの辺りで、まだ10パーセントにもいかないが、この傾向は全国的にも一緒である。他の政令市との比較で大幅に低いのが学校教育や地域社会における平等感である。なぜかという分析はできていないが、部会長のご指摘のように、本文や指標の立て方など、今後相談しながら詰めていきたい。

3 その他

①今後の進め方

6月25日に審議会を開催。7月に行う次回の策定部会では指標についてご審議いただく。

②「男女共同参画行動計画の策定と進捗管理」講座を振り返って意見交換

(部会長)

内藤先生の講義は納得したが、実際に落とし込むとなると結構難しい。やはり数値化をして人の行動をどう変えていくか、意識を変えていくかという部分。

(田中委員)

内藤先生がおっしゃったことで、もう一つ印象に残ったのが、現場の方のインタビューをすること。アルザの事業などについて、こちら側がきちんと基準をもった上で、いくつか重点のところだけでいいので、インタビューを数値化していけるといい。

(鈴木委員)

評価の重複事業などが整理されるのはありがたい。

(事務局)

事業の数や、指標とどう組み合わせるか、新潟市の進捗管理の方法を今後検討していく。